

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 2 区分

【発行日】令和 1 年 6 月 27 日 (2019.6.27)

【公開番号】特開 2019-55302 (P2019-55302A)

【公開日】平成 31 年 4 月 11 日 (2019.4.11)

【年通号数】公開・登録公報 2019-014

【出願番号】特願 2019-4971 (P2019-4971)

【国際特許分類】

A 6 3 F 7/02 (2006.01)

【F I】

A 6 3 F 7/02 3 2 0

【手続補正書】

【提出日】令和 1 年 5 月 21 日 (2019.5.21)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

始動条件の成立に基づいて複数列の図柄の変動表示を行い、前記変動表示の結果が予め定められた特別表示結果になると遊技者に有利な特別遊技を実行することが可能な遊技機において、

前記図柄を視認し難い第 1 態様と前記第 1 態様よりも視認し易い第 2 態様の何れかの態様で変動表示可能な表示制御手段を備え、

前記表示制御手段は、

前記図柄を前記第 1 態様にて変動表示させた後に、前記第 2 態様にて変動表示させ、

前記第 2 態様の変動表示を、変化可能な変化可能表示状態から確定停止表示状態とすることが可能であり、

前記特別表示結果となる第 1 の変動態様で変動表示される場合と前記特別表示結果とならない第 2 の変動態様で変動表示される場合の何れであっても、前記第 2 態様の変動表示が前記変化可能表示状態から前記確定停止表示状態に移行することを示唆する所定演出を実行可能であり、

前記第 2 の変動態様において、前記特別遊技が実行される可能性が高いことを示唆する特別演出が実行されない場合よりも前記特別演出が実行される場合の方が前記所定演出を実行し易いことを特徴とする遊技機。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 7

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 0 7】

本発明は、始動条件の成立に基づいて複数列の図柄の変動表示を行い、前記変動表示の結果が予め定められた特別表示結果(例えば、当り)になると遊技者に有利な特別遊技(例えば、大当り遊技)を実行することが可能な遊技機において、前記図柄を視認し難い第 1 態様(例えば、高速変動で表示)と前記第 1 態様よりも視認し易い第 2 態様(例えば、3 つの図柄が揃って表示)の何れかの態様で変動表示可能な表示制御手段を備え、前記表示制御手段は、前記図柄を前記第 1 態様にて変動表示させた後に、前記第 2 態様にて変動表示

させ、前記第２態様の変動表示を、変化可能な変化可能表示状態(例えば、３つの図柄が揃って揺動状態で表示(仮停止))から確定停止表示状態(例えば、３つの図柄が揃って静止状態で表示(本停止、確定停止))とすることが可能であり、前記特別表示結果となる第１の変動態様(例えば、当り変動パターン)で変動表示される場合と前記特別表示結果とならない第２の変動態様(例えば、ハズレ変動パターン)で変動表示される場合の何れであっても、前記第２態様の変動表示が前記変化可能表示状態から前記確定停止表示状態に移行することを示唆する所定演出(図５４～図５６の停止示唆演出(例えば、図柄の色が変わる、図柄が光る、図柄が拡大する、図柄が自転にて一回転する、図柄以外の表示場面転換))を実行可能であり、前記第２の変動態様において、前記特別遊技が実行される可能性が高いことを示唆する特別演出が実行されない場合よりも前記特別演出が実行される場合の方が前記所定演出を実行し易いことを特徴とする。

【手続補正３】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】０００８

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正４】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】０００９

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正５】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】００１０

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正６】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】００１１

【補正方法】変更

【補正の内容】

【００１１】

本発明によれば、遊技進行の節度を保ち、遊技興趣の向上を図ることができる。